

釧路湿原川レンジャー News

2010 Vol.4

第3回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました



釧路湿原は今年で
ラムサール条約登録
30周年を迎えました!!

平成22年10月29日(金)に、17名が参加して「第3回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催。今回は、「釧路川の簡易土壌調査と釧路地区水防拠点の見学、油流出事故訓練への参加」を実施しました。



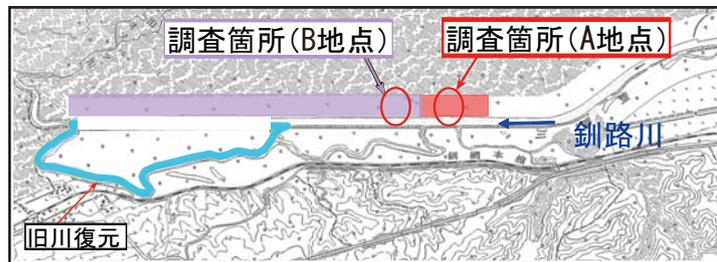
簡易土壌調査について

この調査は、土砂撤去によるグライ土層の深度の違いと植生の変化を調べることを目的として実施しました。川レンジャーが2~3名の6班に分かれ、調査地点において土砂を掘り出し、ジピリジル酢酸溶液と反応させ、グライ土層の深さを把握しました。なお、グライとはロシア語に由来しており、田んぼや湿原のような水浸しの所に形成される灰色の土で、ヨシはイネと同じ仲間なので同じような場所を好みます。

調査結果

ジピリジル酢酸溶液との反応により、鮮明な赤色になるほど、ヨシにとっては良好な土と言えます。土砂撤去区間(A地点)と未撤去区間(B地点)を比較したところA地点の方が地面から浅い位置で鮮明な赤色になり、B地点は深い位置で薄い赤色になることがわかりました。この結果により、A地点の方がB地点よりヨシの生育に適した湿原の土になっていると言えます。

また、A地点でヨシやイグサが多いのに対し、B地点ではヨシ、クサヨシ、カササゲ等が多く、植生の違いも見られました。



調査に参加した釧路湿原川レンジャー



説明を聞く参加者



身長程度に生長したヨシ



調査地点での穴掘り



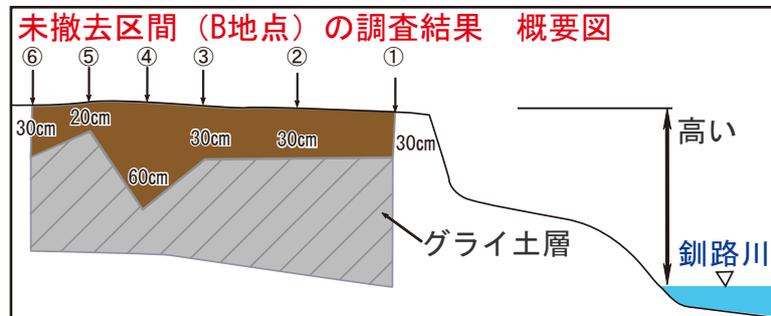
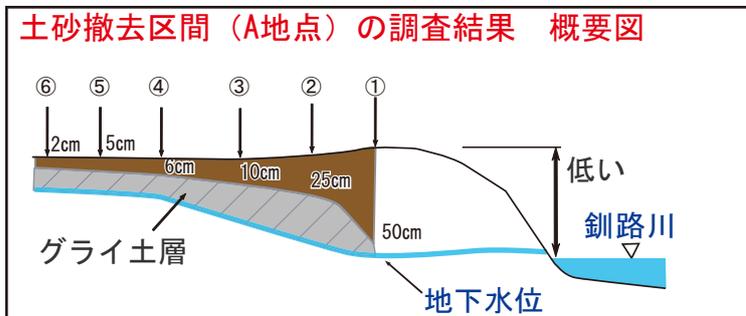
掘った土砂でジピリジル試験



ジピリジル反応



調査結果の発表



釧路地区水防拠点の見学

午後からは、釧路市の愛国にある釧路地区水防拠点で排水ポンプ車や備蓄資材の見学を行いました。排水ポンプ車は、出水によって堤防の内側（市街地側）に溜まった水を川に排水するための車で、近隣の市町村等からの要請により出動します。また、建物内には、出水時に土砂を入れて使用する大型土のう袋や、川に油が流出した時に使用するオイルフェンスや吸着マットもあり、災害時の備えを確認しました。

見学した参加者からは、「何事もなく、使わないのが一番良いよね」という感想がありました。



排水ポンプ車や備蓄資材の説明を聞く参加者



備蓄資材を見学する参加者



油流出事故訓練の参加

釧路川では毎年、釧路川環境保全連絡協議会主催で釧路川水系油流出事故訓練が行われています。今年は、釧路市の新釧路川右岸昭和樋門周辺で①油類流出拡散防止訓練、②油類の回収訓練、③油類の嗅覚訓練が行われ、釧路湿原川レンジャーも今回初めて参加しました。

最初に①では、実際の排水路にフェンスとマットを設置し、コルク（疑似油）の流出を防ぐ訓練を見学しました。次に②の訓練では、各タライに灯油、A重油、廃潤滑油が入っており、実際にひしゃくを使って油類の回収を体験しました。みなさん初めての作業でしたが手際よく回収していました。最後の③の訓練では、各試験管に入っているガソリンや灯油など、5種類の油を臭いと色で推測しました。普段よく耳にする油が多かったのですが判断するのはなかなか難しく、全問正解者は少なかったです。



①油流出拡散防止訓練



灯油



A重油



廃潤滑油

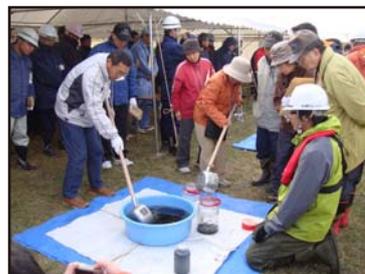
②油類の回収訓練



訓練を見学する参加者



説明を聞く参加者



油類の回収



③油類の嗅覚訓練



試験管に入った5種類の油